



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」  
「美しい森林づくり推進国民運動」

# 日本コムシスの美しい森林づくり

日本コムシス株式会社の美しい森林づくりの活動は平成一八年にスタートしました。社員やその家族が参加して立ち上げた「コムシス森林サポーター」が、社団法人埼玉県農林公社と「日本コムシスの森づくり協定」を締結し、埼玉県毛呂山町で「コムシスの森」の整備を開始しました。これまでに延べ七ヶ、二万一千本のヒノキの枝打ちを行っています。

また、こうした活動は栃木県日光市に設定した「霧降協働の森」でも展開されており、それぞれの活動拠点では、地元の人々との連携を深めながら着実に成果を上げています。



## 「コムシスの森」の創設

平成一八年の二月、日本コムシス株式会社関東中支店のメンバーが中心となって「コムシス森林サポーター」が結成されました。「紙や電力の消費量を減らすのはもはや企業としては当たり前のこと。そこから一歩進めて、コムシスの環境方針と理念に沿った具体的な行動を始めた」と思ったのが『コムシス森林サポーター』組織化のきっかけでした」と

当時を振り返るのは同社の森林づくり活動の中心的な役割を担っている関東中支店の森林サポーター実行委員会事務局の石坂賢一さんです。

石坂さんは、組織の活動場所や内容を具体化するため、林野庁のホームページ等様々な森林づくりの情報を精力的に収集し、結成の二ヶ月後には、埼玉県農林公社と「日本コムシスの森づくり」に関する協定書を締結し、埼玉県毛呂山町の鎌北湖畔にある同公社が管理する人工林に「コ

ムシスの森」を設定しました。石坂さん等サポーターはこの森を拠点に活動しており、林内の下層植生の発達と幹の成長を促し、林内に適度に光が入る枝打ちから始めました。協定締結後四年間で、二二回にわたり二万一千本のヒノキの枝打ち（延べ七ヶ）を行いました。

サポーターの活動は、森林整備を目的とした実務型と、森林に親しむためのイベント型に分かれています。

現在、総勢六八二名が登録されていますが、「実務型には二三百名程度が参加し、樹木の生長が休止している秋季から冬季にかけて五回程度、集中的に枝打ちや間伐等を実施します。参加者は関係会社を含め屋外での工事作業等に従事するコムシス社員が中心で、ヘルメットや安全靴などは自前のものです。作業は、公社職員の指導を受けて行いますが、屋外作業に慣れているため、作業効率が高いと公社の担当者からは評価されています。『コムシスの森』の枝打



「コムシスの森」では間伐（写真上、平成20年から）や枝打ち（写真下、平成21年まで）を実施。



平成一八年の二月、日本コムシス株式会社関東中支店のメンバーが中心となって「コムシス森林サポーター」が結成されました。「紙や電力の消費量を減らすのはもはや企業としては当たり前のこと。そこから一歩進めて、コムシスの環境方針と理念に沿った具体的な行動を始めた」と思ったのが『コムシス森林サポーター』組織化のきっかけでした」と

当時を振り返るのは同社の森林づくり活動の中心的な役割を担っている関東中支店の森林サポーター実行委員会事務局の石坂賢一さんです。石坂さんは、組織の活動場所や内容を具体化するため、林野庁のホームページ等様々な森林づくりの情報を精力的に収集し、結成の二ヶ月後には、埼玉県農林公社と「日本コムシスの森づくり」に関する協定書を締結し、埼玉県毛呂山町の鎌北湖畔にある同公社が管理する人工林に「コ

ムシスの森」を設定しました。石坂さん等サポーターはこの森を拠点に活動しており、林内の下層植生の発達と幹の成長を促し、林内に適度に光が入る枝打ちから始めました。協定締結後四年間で、二二回にわたり二万一千本のヒノキの枝打ち（延べ七ヶ）を行いました。サポーターの活動は、森林整備を目的とした実務型と、森林に親しむためのイベント型に分かれています。現在、総勢六八二名が登録されていますが、「実務型には二三百名程度が参加し、樹木の生長が休止している秋季から冬季にかけて五回程度、集中的に枝打ちや間伐等を実施します。参加者は関係会社を含め屋外での工事作業等に従事するコムシス社員が中心で、ヘルメットや安全靴などは自前のものです。作業は、公社職員の指導を受けて行いますが、屋外作業に慣れているため、作業効率が高いと公社の担当者からは評価されています。『コムシスの森』の枝打



コムシス森林サポーター実行委員会事務局の石坂さん（写真右）と横手関東中支店ISO推進室長（写真左）



家族や地元児童などが参加して開催された毛呂山町での植樹祭

ち作業が順調に進んだことも、このような実務型の整備体制がものをつたっていると思います」と石坂さんは説明しています。

一方、事務局の横手英夫関東中支店ISO推進室長は、「森林整備の作業だけでは、森林に直接関連のない企業が森林整備への取組を永く継続することはできません。会社側の理解が必要ですし、当然社員の森林整備に対する理解も不可欠です。このため、イベント型の活動として植樹祭などを年に一、二回開催しています」と話します。森林づくり活動への理解の醸成を図ることは社内向け



コムシスの森での間伐作業の参加者

だけではありません。植樹祭などのイベント情報は、支店のあるさいたま市の地元自治会や「コムシスの森」の所在地である毛呂山町の住民の方々にも参加を呼び掛け広く発信されています。

「コムシスの森」での活動は、平成二一年から新たな段階を迎えました。枝打ちにより、林内に光が入るようになった森では、今年から間伐作業を開始しました。樹木の成長に合わせたこの取組も県農林公社などと相談しながら進めています。

### 日光・霧降でも整備活動

また、同社栃木支店は、平成一八

年に財団法人栃木県森林整備公社を通じて、日光市及び「霧降を元気にする会」（日光市）と「霧降協働の森づくり協定」を締結し、広葉樹の森づくりに取り組んでいます。埼玉にある「コムシスの森」まで通うには遠い社員・家族のためのフィールドとして設定し、水源の森を整備することが目的です。協定を締結した年にはブナやミズナラを植樹しました。その後、補植や下草刈りを毎年実施しており、樹皮堆肥を用いたハタケシメジの栽培などにも取り組んでいます。ハタケシメジは菌床を植付後一カ月で収穫でき、参加者の反応は極めて良好です。森の恵みを楽しむことも、森への関心を高める重要なファクターです。

### 緑の募金が整備活動をサポート

日本コムシスでは、このような社員の森林保全活動をサポートするため、「森林サポーター

緑の募金」も実施しています。

平成二〇年からはインターネット（社内限定のインターネット）上に緑の募金の呼びかけを行い、一口五百円から五千円の金額欄をクリッ



霧降協働の森での下草刈りと（写真上）とハタケシメジの植付け（写真下）

クすればこれが給料から天引きされるシステムを導入しました。社員の募金額の一部を会社が助成するマッチングギフト制度も導入し、昨年は協力会社の皆さんの募金を合わせると総額百六十七万円が集まりました。この募金は全額森林のサポート活動に充てられています。

### 森づくりの大切さ着実に浸透

日本コムシスの林久美広報・CSR推進室長は、このような社員・家族参加型の森林づくり活動に対して「森づくりの活動は息の永い継続的な取組が必要です。現在取り組んでいる活動は、社員や周辺住民の皆様に着実に根付き、森の大切さを浸透させる成果を上げていると実感しています」と取組の成果を評価し、森林づくりの活動を引き続きサポートしていく姿勢を表明しています。